

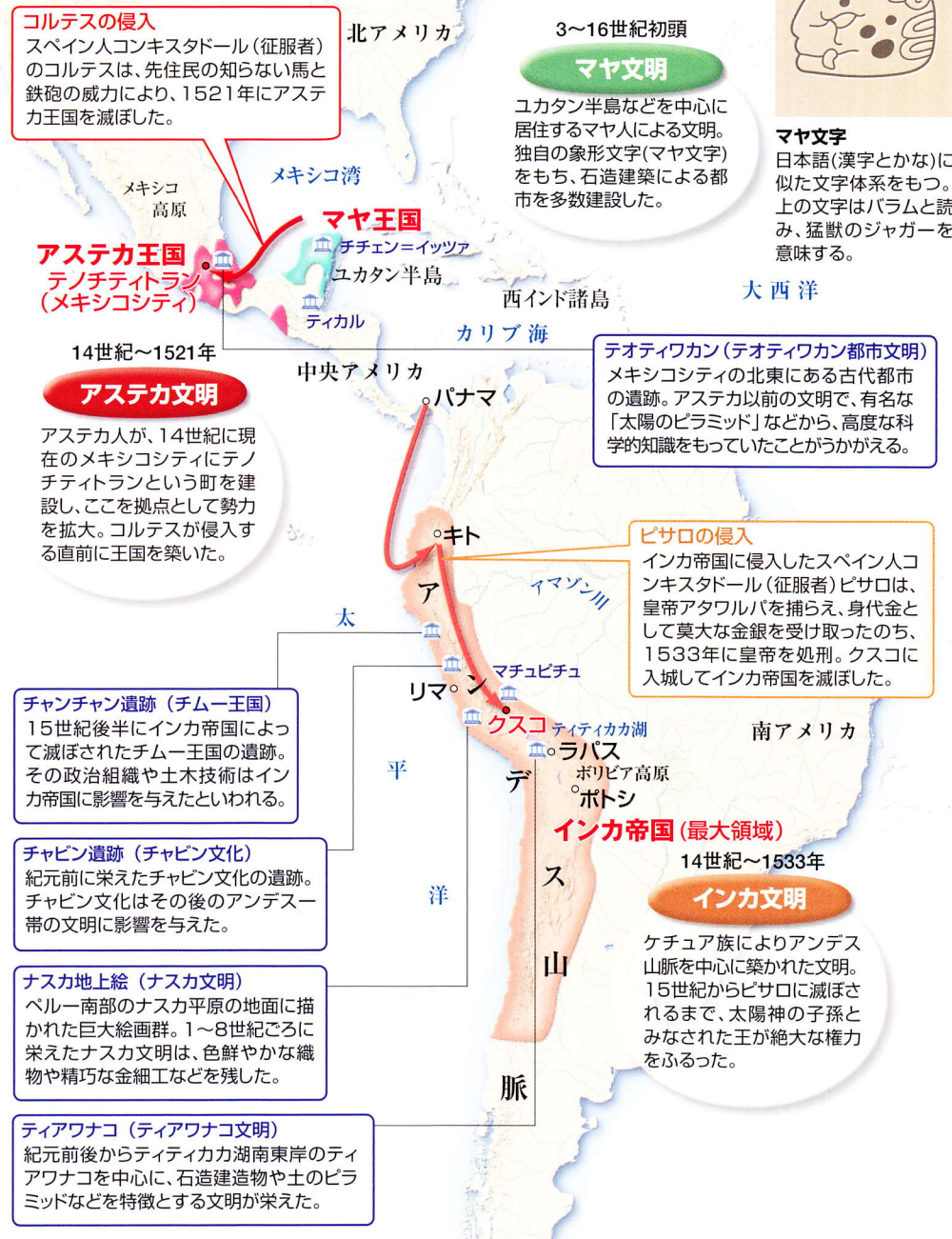
モンゴロイドが築いた アメリカ大陸の文明



約3万年前にアジアから
移住してきたモンゴル系
人種によって、アメリカ大陸の
文明が築かれた。

アメリカ大陸の文明

アメリカ大陸では、16世紀にスペイン人のコルテスやピサロに征服されるまで、
ほかの大陸とはつながりのない独自の文明が発達していた。



トウモロコシ栽培で発展した アメリカ大陸の諸文明

アメリカ大陸の先住民は、約3万年前にユーラシア大陸から移住してきたモンゴロイドであるといわれている。彼らの多くは部族的な社会を形成し、狩猟や採集によって生活をしてきたが、メキシコ高原や中央アメリカ、アンデス山脈ではトウモロコシの栽培によって農耕文化が発達し、独自の文明を形成していった。

前9世紀ごろメキシコ湾岸地域を中心に成立したオルメカ文化は、巨大なピラミッド型神殿をもつテオティワカン都市文明へと受け継がれ、後6世紀ごろまで栄えた。さらに、この都市文明は中央アメリカへ伝わり、後3世紀ごろには、高度な天文観測や精密な暦法で知られるマヤ文明が誕生した。これらメキシコ高原と中央アメリカの文明はメソアメリカ文明と総称され、トルテカ族やチメカ族をへてアステカ族に継承され、やがてアステカ王国へと発展した。

また、メキシコ高原からトウモロコシ栽培が伝わったアンデス山脈では、前10世紀ごろに精巧な土器や織物をもつチャビン文化が成立し、紀元前後には都市文明として発展した。その後、大規模な灌漑設備がつくられてトウモロコシやジャガイモの栽培がアンデス山脈一帯に広がり、7世紀ごろにはボリビア高原にティアワナコ文明の都市が建設された。そして、諸王国が興亡する時代が続いたのち、次第に勢力を増したケチュア族がアンデス一帯を統一。15世紀初頭にはクスコを中心に、精巧な石工技術や数量を記録するキープ(結縄)など、独特の文化をもったインカ帝国を建設した。

Key
Word

北米の先住民文化

極北地域ではイヌイットなどが狩猟生活を営み、狩猟に必要な少人数の集団で生活していた。南下するにつれ、採集や農耕によって食糧を確保する生活がみられるようになり、生活集団も大規模になった。現在のアメリカ合衆国南西部ではメソアメリカ文明の影響もみられ、ホピ族やナバホ族などは発達した村落組織をもっていた。